

いたちかわらばん

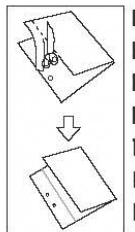
通刊 93 号 鮪川・狹川 / 川原番・瓦版 (24 春号)



【版画 宗森英夫 通刊 61 号の版画を再掲】 (桂橋上流)

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



昔の人は「櫻の正字」を教えるのに「ニカインオンナガキニカカル」と教えた。「二つの貝を横並べ」、その下に「女」、それを旁(つくり)にして、「木」偏(へん)と組み合わせれば「櫻」になる…

かわらばんではかつて大々的にさくら特集(第61号)をしたので今回はごく身近なさくらを書こうと考え「いたち川右岸のさくら」にした。

右岸は天神橋までずっと川沿いを歩ける道があるのに対し左岸は所々川沿いを歩ける道が無いからである。さあ、さくら探しウォーキングをしてみよう！紅葉橋から歩き始めて次の石原橋間は1本。石原橋から次の尾月橋間も1本。尾月橋と葉月橋と青葉橋間は一気に増えて15本。そこから天神橋間は40本になり紅葉橋と天神橋、13橋間では総数なんと57本ある。(この中には本郷小学校校庭の10本も含めた)

その種類は「ソメイヨシノ」「ヤマザクラ」「オオシマザクラ」など様々だが「ヤエザクラ」は5本、「カワツザクラ」(石原橋袂の若木)は1本しかない。

概して老木が多くて若木は少なく5本しかない。木々には名前を書いた札が付いているが、さくらに限って言えば読めるのは「サトザクラ」だけである。

左岸のさくらは右岸に比べてずっと少ないのでいくつか読者の皆さんが歩いて調べてみて頂きたいと思う。

櫻の開花が待ち遠しい！ゆっくり、1本1本の櫻を愛でながら歩いてみたい。いたち川の流を共に愛でながら、ね。

(ピンテール)

いたち川右岸のさくら… ニカインオンナガキニカカル

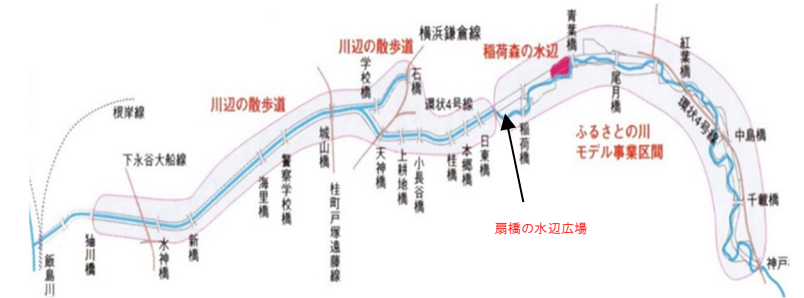
～小学校理科の先生方がいたち川を学習・研修～ 栄区理科研究会「境川水系 いたち川研修」

8月17日(木)に「栄区小学校理科研究会」の2023年度研修が本郷小学校の理科室で開催されました。司会の西山先生から栄区小学校理科研究会の活動経緯、会場校の挨拶、部長先生の挨拶に続き、講師としていたち川OTASUKE隊の和久井さん(キャリアコミュニケーター)が紹介されました。講座の概要は以下の通りです。

＜いたち川の概要＞

いたち川は横浜市栄区の区境に源を発し区内を東西に流れ、笠間町地先で境川(二級河川)の支流である柏尾川に合流する二級河川です。全延長9km、二級河川部分6.17km、流域面積13.88km²、ふるさとの川整備区間は2.5kmです。和久井さんの解説を大型画面のPowerPoint画像を見て聴いて学習しました。

- ① 河川用語の説明、川での事故防止の要点
- ② 「いたち川の名前の由来」
- ③ 明治時代の地図
- ④ 流域図
- ⑤ 河川改修前の「いたち川」と洪水状況
- ⑥ 環境復元のプロセス
- ⑦ 航空写真による「いたち川」の説明
- ⑧ 多自然型工法による河川改修
- ⑨ 環境教育とボランティア活動
- ⑩ 「いたち川」沿いの動物と植物



教室での講義を1時間行い、引き続き屋外での体験実習が行われました。本郷小学校の南を流れるいたち川沿いを植物や鳥の説明を聞きながら東へ徒歩10分、扇橋の水辺広場に到着しました。石組みの堰と浅瀬に加えて岸辺に草むらがほどよくある旧河川部で生き物探しをするために玉網を持って川に入りました。採取した生物はアブラハヤ、ドジョウ、メダカの小さいものだけでした。今年は豪雨により水量の増減や濁流が発生し、草むらがすっかり流されて捕獲数が少なかったように思われます。

この場所は昨年まではオイカワ、テナガエビ、ヌマエビ、ヨシノボリなど多種の生物が獲れた場所です。これまでにいたち川OTASUKE隊は、小学校の総合学習のテーマ「いたち川の生きものさがし」他、上記の①、②、⑨、⑩に重点を置いて、数多く手伝ってきました。川遊びを通して自然の不思議さや川の危険性を学習することで、勉強の面白さや楽しさが増すことを願っています。栄区の自然やいたち川について知りたい方は、いたち川OTASUKE隊に遠慮なく連絡してください。(うめおきな)

☆洗井沢水源ウォーキング☆

春の荒井沢の源流を探索して、草木が繁茂している夏期には確認できない水源と数多くの珍しい植物を観察することができると思います。

日 時：令和6年4月9日(火)

集合場所：天神橋バス停

集合時間：10:00

天神橋バス停(神奈中上之行 船11)→桂台中央バス停(徒歩)→極楽広場(トイレ休憩)→洗井沢川源流部散策→荒井沢溜池巡り(上池、中池、下池)→皆城山山頂(昼食休憩)→荒井沢市民の森散策→桂山公園バス停(解散)

*雨天中止。中止の場合は、前日ご連絡します。

参加費：100円(保険料等)

持ち物：飲み物、雨具、昼食(自由)

参加人数：20名(先着順)

参加要領：参加希望者は、葉書、メール、FAXで

住所・氏名・ふりがな・電話番号を明記の上、令和6年3月29日(金)までに下記に応募して下さい。(当日消印有効)

応募先：〒247-0005 栄区桂町303-19
(電話) 894-8161 (FAX) 894-9127
(アドレス) sa-kikaku@city.yokohama.jp
栄区役所区政推進課企画調整係

*内容については、和久井(いたち川OTASUKE隊、080-3498-0552)まで

発行年月

2024年2月

通刊 93 号

発行：狹川 OTASUKE 隊 (いたちがわおたすけたい)

OTASUKE 隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8161 FAX 045-894-9127

編集協力：栄土木事務所下水道・公園係 TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421

「いたち川の水源」 第7弾!!

いたち川本川は、神戸橋までは二級河川ですがそれより上流部は、普通河川（水路）となっています。長倉町で環状4号線を挟んで二つに分かれています。上流に向かって左側は「長倉町小川アメニティ」を経て横浜自然観察の森から流れ出ています。右側は「横浜霊園」「横浜市資源循環局栄事務所」の崖から滴る水滴を集めて源流となっています。

*長倉町小川アメニティ

長倉の住宅地東側に沿って深い谷となっていた小川をボックスカルバートで暗渠化して、その上部に小川を再現した構造で、流れ込む水は一定を保つようになっています。100m位の短い小川ですがその下流はいたち川小川アメニティに連なり神戸橋まで散策できるようになっています。



*ミズキの池

横浜自然観察の森が出来た時に整備された池で、野鳥を観察できるようになっています。長倉住宅からの散策路はみずきの道となっており水路に沿って登ってゆくとミズキの池を経て自然観察センター、上郷・森の家に到達します。その道沿いには多くのミズキやコクサギが生い茂っています。ミズキは落葉広葉樹で早春に地中から多くの水を吸い上げて、枝を切ると大量の水のような樹液が流れ出ることに由来するようです。コクサギはミカン科でアゲハ蝶の幼虫が育つ樹木です。

*源氏橋から上流域

環状4号線沿いの小道を降りて源氏橋を渡って行くと、小川沿いには1軒の住宅があり、小川に沿って進んでゆくと小さな木橋があり、みなもとの橋、みなもと二の橋と記されています。そこから20m位進むと左側は絶壁、右側は小川となり渓谷を成しています。その先の左側には廃墟跡があり十数年前までは人が住んでいました。その当時の住人の話では67年前（1956年頃）の不動産の宣伝チラシには、川の名前は「しずか川」で、「源氏橋、第一弁慶橋、第二弁慶橋」（現在は源氏橋、みなもと一の橋、みなもと二の橋）がある静かな住宅地と書いてあり、その静けさにひかれて居住したようです。その上流には、小川はトンネルから流れ出ており、昔耕作地を増やすため河川敷地を開墾した名残のようです。そこを迂回して奥に行くと崖が連なりその前面から滴る水滴が源流となっています。この小川沿いには、貴重な植物も多く観察できます。ジャケツイバラ、サイハイラン、ツルニンジン、ケイワタバコ等のほかスハマソウが生えていましたが、現在では皆無となってしまいました。盗掘により貴重種がなくなることは残念なことです。未来の子どもたちのためにも保護したいものです。

(水・人・子)

NHK 朝ドラ「らんまん」の植物（その2）

「らんまん」のドラマも終わりましたが、その中で紹介された植物は、サブタイトルとして26週間にわたり37種が紹介されました。ドラマの中に出てきた植物は111種類で種子植物（樹木、草）、シダ植物、コケ植物、藻類、菌類、サボテンまで登場しております。牧野博士が命名した植物は1,500種に及び、日本初の植物図鑑を出版しただけでなく、1909（明治42年）には日本初の植物同好会「横浜植物会」を設立し、自らの植物知識を多くの人に説き、一般の植物愛好家を育てました。

ドラマの中で紹介された植物の中で栄区内の植物と関連又は近似種等を順次掲載します。

ヤマザクラ（山桜）はバラ科サクラ属の落葉高木です。日本の固有種で、日本に自生する11種あるサクラ属の基本野生種の一つです。**オオシマサクラ**と同じく温暖地域分布する桜で、栄区の林で見られるのは殆どこの2種類です。春先に山を見てピンク色に見えるのはヤマザクラ、シロ色に見えるのはオオシマサクラです。

ホウライシダ（蓬萊羊歯）はホウライシダ科ホウライシダ属のシダ植物です。温帯から熱帯にかけて岩場、崖などに生えている常緑性の多年草です。観賞用として属名**アジアナム**と呼ばれ園芸店で売られています。栄区ではいたち川の神戸橋上流の崖、石に固着しています。

ムジナモ（貉藻、貉藻）は、モウセンゴケ科ムジナモ属の多年草の水生植物であり、1属1種の食虫植物で、発見者である植物学者の牧野富太郎は和名をつけるとき「タヌキモ」と命名したかったが、既にタヌキモという植物があったため、タヌキの別名であるムジナから「ムジナモ」と名付けられたようです。1980年以前は市内の河川は汚濁して水草が皆無でありましたが、いたち川の右支川で**フサモ**（アリトウグサ科多年生水生植物）が生き延びていたことが分かり話題になったことがありました。

イノコヅチ（猪子槌）は、ヒユ科イノコヅチ属の多年草で、日のあまり当たらない場所に生える野草です。**ヒナタイノコヅチ**に対して**ヒカゲイノコヅチ**（日陰猪子槌）ともいいます。和名**イノコヅチ**の由来は、茎の節が膨らんでいて、猪子の膝のように見えることから、これを槌に見立ててこの名がついたと言われております。これはどこにでも生えている野草で別名**ドロボウグサ**、**ヌスビト**、**ヒツキムシ**等嫌われ者ですが、漢方薬として根を乾燥させた物を煎じて利尿、強精、通経薬として使用されてきたようです。若芽・柔らかい葉は、おひたし、和え物、炒め物、ポターージュ、佃煮のほか、葉や蕾を天ぷらで食べることが出来ます。（水・人・子）

「いたち川 右支川の赤坂川源流ウォーキング」 「小菅ヶ谷北公園」栄区の新しい大きな公園です

9月19日（火）、「小菅ヶ谷北公園ウォーキング」を開催しました。小菅ヶ谷北公園については、詳しく「いたちかわばん91号」にてご紹介してありますが、栄区の北部にある規模の大きい自然豊かな新しい公園です。本郷台駅から徒歩約25分、江ノ電バスで小菅ヶ谷北公園行きに乗車して約15分です。

面積は約9.8ha（計画面積は12.7ha）です。港南区と戸塚区に接しており、舞岡公園とともに広大な緑地を形成しています。

横浜市の自然環境保護／公園活用運営の方針が、住民の皆さんが交流し、利用と情報発信をしやすく、規模の大きい新規公園として案内機能の強化も継続的に行い、皆さんと一緒に作る公園を目指しています。他の都市からも注目されています。

いたち川の右支川（上流から下流に向かって右から合流している川）である赤坂川の水源として重要な緑地です。赤坂川はほとんどが暗渠化されています。地表で確認できるオープン河川部分は西本郷小学校の北側に少し見ることが出来ます。本郷台小学校の南側から長光寺前、桂町戸塚遠藤線を横断し、旧道沿いに流れています。水の一部は「栄第一水再生センター」水処理場に分水され、活用されています。再生水はいたち川に合流しています。水質などはきちんと横浜市が管理しています。コロナ前の栄区の小学校の総合学習では「いたち川の生き物調べ」でお魚のほか、昆虫や貝が生息していることをしっかり観察し確認しています。ここまでは「小菅ヶ谷北公園ウォーキング」でお話しした一部です。

この公園の特色は、利用者拠点ゾーンでのバーベキューとすぐ近くでの自然観察、自然観察ゾーン、散策の森ゾーンなど、利用する方の目的、体力と時間に合わせて年中活用できることです。

「ぜひ一度、行って見られるのが一番」とお勧めします。

(うめおきな)